

# PSYCHIC BIDDING GUIDELINES (邦訳)

パートナー間の了解に基づくサイキック・コール及び類似の行為について

1997年版ブリッジの規則では「パートナー間の了解に基づいていない」という条件でプレイヤーがサイキック・コールを行うことを認めている。あるコールがパートナー間の了解に基づいている場合は、そのコールはサイキックとは見なされない。WBF 法規委員会の 2000年8月30日の議事録によれば、あるコールをしたプレイヤーのパートナーが、それがサイキックの可能性があると認識できる程度に発生頻度が高い場合には、実際にその可能性を考慮に入れた行動を取らなかったとしても、パートナー間に了解事項が存在すると見なされる。WBFの行動規範 (Code of Practice) にも関連する記述があるが、このような了解事項は事前に公開されていなければならない。

上記のような了解事項は、WBFの後援により行われる世界選手権その他の試合においては下記の要件に従って公開されなければならない。

- ①サイキック・コールが予測されるか又はシステムにより保護されている場合は **Brown Sticker** に分類される。  
例としては、有利なバル関係のサードハンドでは全ての手をオープンする場合等がある。
- ②場合によっては通常のコールの意味を著しく逸脱することがあり、逸脱の内容が予測できる場合もコンベンションカードに公開しなければならない。  
公開の対象となる了解事項には、明示的な了解事項の他にペアとしての過去の経験や相互に共有する知識で対戦相手が知り得ないものも含まれる。これらの了解事項はコンベンションカードに特殊なディフェンスが必要なコンベンションとして記載しなければならない。また補足シートにはこれらの逸脱が起こりうる状況やこれに関連してパートナー間で予測される行動に関する完全な説明が記載されなければならない。十分な公開が行われれば、このような了解事項は全てのカテゴリーの試合で許容される。
- ③ランダムなサイキックは、パートナーがサイキックの可能性を認識する度合いが対戦相手より高くないという条件で、ブリッジの規則により許容される。
- ④ディフェンダーのカーディングに関するサイキックについても、前項と同様の原則が適用される。

WBF システム委員会  
2002年8月